大学卒業程度（保健師　専門試験）　３問

COPD に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1．COPD は慢性気管支炎や気管支喘息，肺気腫の総称で，有害物質を長期に吸入曝露することで生じた肺の炎症性疾患である。

2．COPD の特徴的な症状は，歩行時や階段昇降時に息切れを感じる労作時呼吸困難や慢性の咳や痰である。

3．肺胞が破壊されて，肺気腫という状態になると，肺が膨らもうとする力が減少して，息を吐くのは容易だが息を吸うことが困難になり，酸素の取り込み機能が低下する。

4．肺機能検査（スパイロメトリー）で，「１秒率」が50％あれば，COPD の可能性は低い。

5．喫煙者における COPD の発症率はおよそ50％である。COPD 患者が禁煙すると，「１秒量」が改善する。

正答　２

因果関係に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1．仮定された発症要因と，ある疾病に因果関係があると断定するための十分条件は，仮定された発症要因とその疾病の間に観察研究によって関連が認められることである。

2．因果関係があると判断するためには，要因曝露が罹患より時間的に前であることが必要条件である。これは関連の整合性と呼ばれる。

3．食塩摂取量が多いほど胃がんの罹患率が高いことが分かれば，食塩摂取と胃がんの因果関係を強く示唆することになる。これは関連の普遍性と呼ばれる。

4．ウイルスＸに感染しなければ疾病Ａに罹患せず，ウイルスＸに感染すれば免疫がない者は全員疾病Ａを発症することが分かれば，ウイルスＸと疾病Ａとの因果関係を強く示唆することになる。これは関連の特異性と呼ばれる。

5．交絡因子は，発症要因には強く影響するが疾病には全く影響を与えない因子であり，交絡因子があると発症要因と疾病との間に因果関係があるように見える。

正答　４

健康日本21（第三次）で設定された具体的目標に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1．健康寿命については，男性は70歳，女性は73歳を目標値としている。

2．適正体重を維持している者の増加（肥満，若年女性のやせ，低栄養傾向の高齢者の減少）については，BMI 18.5以上25未満（65歳以上はBMI 20を超え25未満）の者の割合50％を目標値としている。

3．骨粗鬆症検診受診率の向上については，75％を目標値としている。

4．睡眠時間が十分に確保できている者の増加については，睡眠時間が6～9時間（60歳以上については，6～8時間）の者の割合30％を目標値としている。

5．野菜摂取量の増加については，1日当たりの野菜摂取量の平均値350gを目標値としている。

正答　5